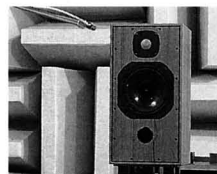
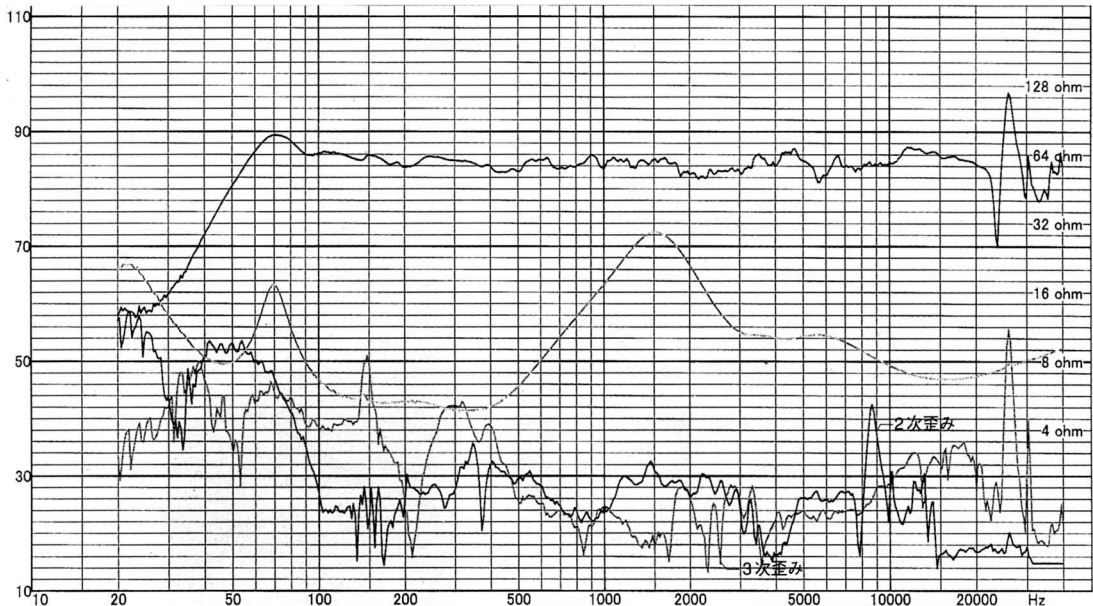


全体には中域がわずかに凹んだ特性なのが特徴です。この特徴は水平30度の指向特性で顕著になり、聴感上は低域が豊かな傾向になることが多いでしょう。水平60度、90度では2.5kHzあたりに谷が生じ、これがこのスピーカーの音色的な特徴のひとつになると思われます。ハードドーム型ツイーターの特徴である超高域のピークは26kHz付近に出ていますね。歪み、とくに500Hz以上の帯域の歪みは大変に少なく、大音量で鳴らすようなタイプのモデルではないでしょうから、歪みに関しては優秀です。公称インピーダンスは8Ωですが、実際には4Ω近くまで下がり、その変動幅も大きめ。ですから特性を活かすにはダンピングファクターの大きなアンプで鳴らしたほうがいいと思います。100Hz以下のふたつの山の高さはほぼ揃っており、オーソドックスに近いバスレフ型の設計であることがわかります。

(石井)

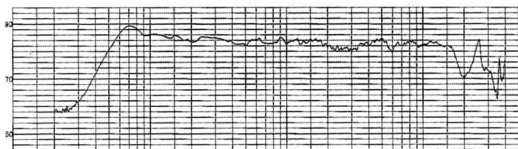


特集試聴&測定で探る現代スピーカーシステムの魅力

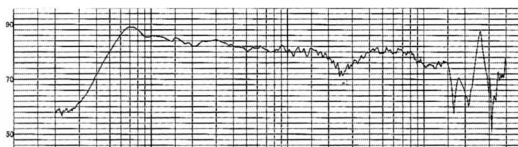


周波数特性/インピーダンス特性/歪み特性

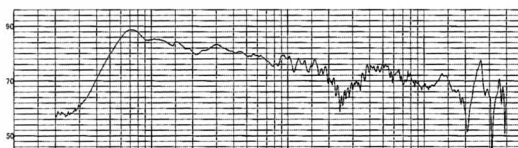
測定ポイント トウィーター6cm下・1m(メーカー指定位置)



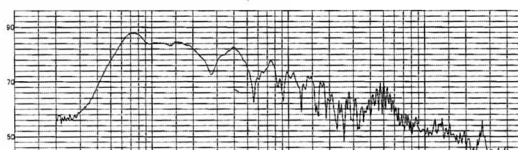
周波数特性(指向感度特性) = 水平30°



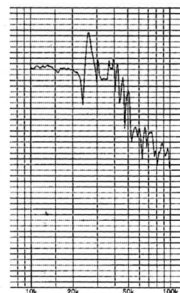
周波数特性(指向感度特性) = 水平60°



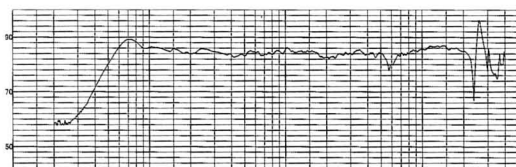
周波数特性(指向感度特性) = 水平90°



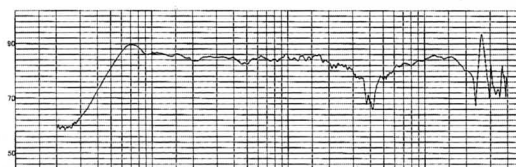
周波数特性(指向感度特性) = 水平180°



超高域周波数特性(10~100kHz) = トウィーター軸上・50cm



周波数特性(指向感度特性) = 垂直+10°



周波数特性(指向感度特性) = 垂直-10°